

「森のキャンプ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

コロナ流行の影響もあって、キャンプがブームになっている。少し条件の良いキャンプ場は、なかなか予約がとれないほど人気があるという。北軽井沢のキャンプ場も、常に予約で一杯の状態だということから驚きだ。

中でも今「静かなブーム」になっているのが「ソロキャンプ」というスタイルだ。私が山岳部にいた頃は、一つのテントに5~6人就寝するのは当たり前で、大きなテントを持って、縦走路を歩いたものだ。しかし今のキャンプは、たとえ複数人で行動していても、「一人一張」のテントを持参し、各々が自由に楽しむのだという。



先日そんな「ソロ・キャンパー」たちが、私の山荘の裏庭の森にやってきた。「こんな普通の森でいいのかな?」と思ったが、こういう「何でもなし森がすばらしい」のだという。

今は、どこのキャンプ場もソロ・キャンパーが多いらしいが、「自由な広い場所で」「自由に火を使って」「自由に過ごせ」「手ごろな利用料金」というところは、なかなか見つからないらしい。条件が良いキャンプ場は半年も前から予約で埋まっていたり、予約がとれても、一張分の活動スペースがとても狭く、「お隣さん」にひどく気をつかうことも多いらしい。駐車場からキャンプサイトまでが遠く、設営完了まで何往復もしなければならないキャンプ場も多いという。その点、我が「森のキャンプ場」は最高の環境らしい。



ソロ・キャンパーたちは、到着すると休憩もせず、すぐにテントの設営を始めた。このテントは「いかにもテント」という形状だ。さすがに手早い。



こちらは、片流れのフライシート(簡易屋根)の下に、ハンモックが吊ってある。ハンモックには「蚊帳」が張ってあり、そのまま就寝できるという。私もちょっと試させてもらったが、森の中に浮かんでいるような感覚で、なかなか愉快だった。



テントの設営が終わると、まだ明るいうちに炊事の支度になる。最初に始まったのは「薪づくり」だ。薪を燃料に煮炊きをするのも驚きだが、大きな材木を割って、自分で細い薪を作るのも面白いと思った。地面を焦がさないように、耐熱シートまで持参している。